題字出口直日
通巻第528号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL (IP) 050-5510-9502
03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

かたちある宝を持ちて救ふより
誠の教に身魂すくへよ

出口王仁三郎聖師

五代教主作 灰釉茶盌 銘「言霊姫」「金龍海五大州茶盌」
六盌のうちの一盌（金龍海六合大島土・金龍海六合大島松釉）

信徒一人ひとりの活動

愛善宣教課主幹 成尾 義

「あのな成尾くん、大本の信徒は卑怯なんやで!?」

今から二十五年前のこと、奉職にあがってまだ三カ月ほどしか経っていなかった私に、当時特派宣伝使を拝命されていた先輩が一言おっしゃいました。

思いがけない〝卑怯〟の言葉に驚いた私は、食い付くようにその真意を尋ねました。

「大本信徒の多くは自分たちが亡くなったあと、魂が霊界に復活すること、そしてどうすればより高い霊界に昇ることができるかを知っているが、それを周囲に伝えられずにいる。自分たちだけが知っているのは良くないことじゃないか？　だから君はみ教えを勉強して、ご縁ある人たちにしっかりと伝えられるようにならんといかんぞ！」と、諭されたのでした。

あれから四半世紀。果たして私自身どれだけの人にお伝えすることができたのかは分かりませんが、折に触れて、その時の情景を鮮明に思いだします。

本年度の「教団方針」では、ポイントとして『外に広く、内に深く』の二つが掲げられ、「みろくの世への実践」八項目が示されました（詳しくは機関誌「大本」一月号付録をご覧ください）。

三代教主さまは、『大本教団活動としての使命は、まことの神さまの存在とそのみ心を悟らしめ、霊界にくらき人々に霊魂の不滅と永遠の生命の歓びを識らしめて、ともどもに神さまのご守護のもと幸福を感受して睦び親しみ、世界平和の礎を築かしていただくところにあります』（昭和四十年四月「三代教主ご教示集」より）と、教団の使命をご教示になりましたが、実際に活動させていただくのは私たち信徒一人ひとりです。

開教百二十の大還暦から百二十一年の新たな周期となる現代に生をいただく私たち信徒は、ご縁ある方たちに対して、しっかりとみ教えをお伝えしていかなければなりません。

勇気と自信をもって、神さまのみ使いとして共々にご神業に励みたく存じます。

「出口なお・出口王仁三郎の世界を語る」より

今を幸せに生きる

―運を開く五つの鍵―

講師 浅田秋彦（あさだ ときひこ）
（東京宣教センター長）

幸せとは

幸せは人類すべてが願って止まない期待、希望です。

しかし人生には、思わぬところに障害があって、なかなか自分の思うようにはならないものです。そういった中で、運命を引き寄せて幸せに生きている人もいれば、幸せに生きたいと思っても良い道が歩めずに、どこかでつまづいてしまう人もいます。

幸せに生きるため、良い運命を引き寄せる〝五つの鍵〟を今日は皆さんにお伝えして、運命に操られるのではなく、自分から運命を引き寄せる生き方を感じていただきたいと思います。

一言で幸せといっても、人によってさまざまな考え方があり、大きく分けて物質的な幸福と精神的な幸福の二つがあるかと思います。

現在の日本は、おそらく手に入れたい物があれば、そのほとんどが手に入るくらい、物質的な豊かさの中にあります。しかしだからと言って、社会みんなが幸せを感じているかというとそうではないと思います。

二〇一一年にブータン王国のワンチュク国王が来日された際、ブータン国民の幸福度が話題になりました。

ブータン王国のGDP（国内総生産）は日本に比べると決して豊かとは言えません。しかし、ブータンの国民の多数が「幸福である」と答えているというものでした。伝統や文化などの精神的な豊かさを生かして、ブータン王国では、多くの国民が幸せを感じているのです。物質やお金では計れない、幸せがあるのです。

確かにお金や物質による満足は、一時的には満たされるかも知れませんが、長続きはしません。物の満足度というのは、結局他者との争いになったりして、なかなか永続的には得ることはできません。

しかしそこに、感謝の気持ちを持つことができれば、精神的な幸せが生まれるのです。食事の時に天地のご恩に感謝する。生産者に対して感謝する。私たちは神さまからのご恩恵を受け、そして様々な人たちの支えがあって、今の自分や生活が存在しているわけですから、すべての事柄に感謝することができれば、自ずと心が満たされていき、本当の意味での幸福を実感することができるのです。

人間を動かす意思

人は誰もが幸せな道を歩みたいと願っていますが、病気やケガをしたり、災害が起こったりと、なかなか自分の理想通りにはいかないものです。

それはなぜかというと、人間を動かしている意思が存在するからです。

それが宇宙創造神です。全大宇宙、そして私たち人間、動植物など、万物はその意思に沿って動いていて、その意思と調和していると、気持ち良く人生が運べるのです。

宇宙創造神の意思は「地上天国」を目指しています。すべてが幸せになる世界を建設するとはっきり示されています。

その時、私たちに与えられた使命、それが「宿命」と「運命」です。

宿命とは、生まれながらにして、すでに定められているものです。例えば日本に生まれたこと、両親のもとに生まれたこと、この時代に生まれたこと。これらは宿命であって変えることはできません。

対して運命は、その人の努力次第で変えていくことができます。

人類は万物の中でも、尊い能力と神性を持ち、善悪正邪の分水嶺に立っていて、その人の心次第で、運命はどんどん良くもなるし、また悪くもなります。

ところが良い方に進もうとしても、人間の心は非常に不安定なので、悪い方へ行ってしまう人も出てくるわけです。

そのところをコントロールするためには、それぞれの物の考え方、因縁、運命、その関係をよく知らなければなりません。

祈り

人間の心というのは霊であり、想像以上に大きな力を持っています。そして天国的になったり、地獄的になったりして身体にも影響を及ぼすこともあります。

その心を良い方向にもつために、祈りを生活の中に生かしていくと、素晴らしい道が開けます。幸せに生きたいと思ったら、やはり神に祈ることです。神に祈るのは、自分で生きているのではなく、生かされているからです。

また祈りにはさまざまな効果があり、アメリカではある大学が研究を行っていて、同じ病状の患者を二組に分けて、片方に対しては病気が治るように祈り、もう片方には祈らなかったところ、薬の量が減ったり、改善の兆しが見えたそうです。

また医学博士の中野信子氏の研究によると、祈ることによって脳が活性化して免疫力が高まる快適ホルモンの分泌が増して、病細胞を小さくしたり、プラス思考の心、笑顔、感謝の気持ちが向上したそうです。

つまり良い祈りをすれば、体も健康になることが学術的にも証明されています。

そして、運命を開く五つの鍵の中心がこの祈りであり、祈りながら四つの鍵の四大主義（清潔主義・楽天主義・進展主義・統一主義）を実践する教えです。

清潔主義

清潔とは、一般的には目で見える所を掃除したり、お風呂に入って身体を洗ったり、衣類を着替えるなど身辺を綺麗に保つことをイメージされると思いますが、目に見えない心の中を清潔にすることが、大変重要になってきます。

心の中を清潔に保つ手掛かりとなるものに、神さまから与えられている「直霊」があり、省みる働きがあります。

客観的に自分の心の動きを省みることによって、自分が正しいかどうか判断するこ

とです。

不平や不満、妬み、恨みは心の垢です。そういった悪い想念も心を天国に向けることで、常に清潔にしていくことができます。

また私たちは、知らないうちに自然を汚していたり、人を傷つけていたりといった、罪や穢れを生じている場合があり、中には先祖から何代も続いているものもあります。

それらを清めるにも、祈りは効果的で、最高の善言美詞である祝詞を奏上して神さまに祈ることで祓い清められます。

『むらきもの心清けくもつ人はいつも天地の神にめぐまる』　（出口王仁三郎聖師）

楽天主義

人には天から与えられた使命「天命」が授けられています。その天命を悟り、ベストを尽くして明るく生きることが楽天主義です。

くよくよしている人が、楽天主義に変わったら、人生は必ず良い方向に変わります。これはぜひ、実践してほしいと思います。

私たちは、顔も性格も能力もすべて違います。天命として、絵が上手とか、文章が得意とか、話すのが流暢とか、いろいろな個性があるわけです。

その自分の性格や能力を見て〝やりたい〟〝やっていきたい〟と思う何かがあるはずです。天命は、辛くてもやりたいと思えることです。

「人事を尽くして天命を待つ」という言葉が一般に言われています。一生懸命人事を尽くして天命がわかるという道も、ないことはないのですが、道が誤っていることもあります。先に天命を知って、正しい道を歩む「天命を知って人事を尽くす」ことが本来の姿であると言えます。

天からの使命を悟り、人事を尽くす。それぞれの個性と能力を知り、使命を自覚して、その目的達成に努めるのです。

お金や地位に執着して、努力している時は、天命から離れているから、いくら努力しても、心が活き活きしないということになります。

もう一つ大事なことは、「信仰的刹那主義」です。

結果は神に任せて、過去でもなく未来でもない、私たちが自由にできる唯一の〝今〟の時間でベストを尽くすことです。

『天地の神の大道にしたがえば一さい万事楽しみとなる』　（出口王仁三郎聖師）

これは決して嘘ではなく、物の考え方によって本当にできるということです。

平成六年、環太平洋ヨットレースに参戦するためアメリカに向かっていた諸井清二氏は、途中大シケによって遭難し、九十二日間洋上をさまよいました。

ヨットが転覆して、マストは折れ、キャビンも浸水。四ヵ月分用意した食糧のうち一ヵ月分は濡れてしまいました。

普通であれば気持ちが落胆して、マイナス思考になって元気にもなれませんが、諸井氏は神に祈ることを知っていた人でした。

そして自分は絶対助かる、神は絶対に助けてくれると祈ったそうです。さらに〝自分は今何をすべきか〟ということに意識を集中させて、生きて帰ることだけを考え、祝詞を奏上して元気をもらえていたのです。

諸井氏は極限の状態の中で、九十二日間楽天に生きた人でした。

進展主義

進展主義もやはり、天命を知ることです。そして積極的に良い思いを持って、天命に従って、積極的に行動していくことです。

時には大きな困難に遭遇することもあると思います。しかしその困難を乗り越えることによって、より大きな幸せを感じることが進展主義です。

楽な道を歩むのではなく、困難な道を乗り越える力をつける。進展している時のほうが、喜びが出てくるのです。

『逆境に立つ身は大なる順境に向かえるものと直に進めよ』　（出口王仁三郎聖師）

逆境の状況あったら、自分は運が悪いと落ち込んでしまいがちですが、それに打ち勝っていくことで、さらに進展することができるのです。

その例として、ロサンゼルスオリンピックの体操競技個人総合優勝をされた具志堅幸司氏（現日本体育大学教授）がいます。大阪の清風高校を卒業し、日体大でも常に良い成績をおさめていました。しかし大学三年の時に左脚を骨折、その後もアキレス腱を切るなどして、自分はもう体操をやめるしかないのかと、あきらめかけた時があったそうです。その時に清風高校時代の恩師であった桑原昭吉先生からいただいた出口日出麿の著書「生きがいの探求」を読んで、自分の逆境を順境に変えていき、病室で上半身を鍛え上げると共に、イメージトレーニングを積むことにより劇的な復活を遂げ、オリンピック個人総合優勝の栄冠を手にしました。

統一主義

宇宙は神を中心とした統一体です。その中で人間や動物、植物が相互に補いあって、調和しています。

人間の身体が小宇宙と言われるのは、私たちがこうして立っている瞬間も、身体全体の機能がバランス良く集中してくれています。これは一人の身体で統一がされているということです。

統一体の中には必ず中心があり、それが大変重要です。家屋には大黒柱があって成り立つように、家庭も中心に世帯主があって、家族がまとまります。

このように中心があることと、相互の調和が統一主義の一番大事なところです。

『統一のなき世の中はなにもかも麻の乱れの治まるときなし』　（出口王仁三郎聖師）

統一がなければ、世の中は治まりません。家庭や職場、どんなグループも同様です。

相互に関連する五つの鍵

生命の根源神に心を向けて祈りながら、清潔、楽天、進展、統一の四大主義を実践していく。祈りによって、心身を清潔に保つ。清潔によって、はじめて楽天的な気持ちになれます。楽天的な気持ちになって、本当の進展があります。しかし何があっても統一がなかったならば、世界も社会も家庭も個人も成り立ちません。

つまり五つの鍵がバラバラではなく、相互に関連しているのです。

『今日も良し明日もまた良し何事も神の心に任す身なれば』　（出口王仁三郎聖師）

最後に、百歳になられた方々に長生きの秘訣についてアンケートを実施したところ、非常に多かった答えが〝くよくよしないこと〟と〝好奇心を持つこと〟だったそうです。まさに四大主義を実践すれば、長生きができるということです。

節分大祭遥拝祭

節分大祭遥拝祭は二月三日、午後六時三十分より斎主・森良秀東京宣教センター次長のもと執り行われ、百二十四人が参拝した。

祭典後、大本神諭の拝読、斎主・祭員による豆まきが行われ、次いで浅田秋彦東京宣教センター長があいさつをのべた。

その後、参拝者はダルマや干支の飾り物が当たる福引を楽しんだほか、食堂にて温かい甘酒が振る舞われた。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・豊年祈願祭・市杵島姫命例大祭は二月十日、午前十時三十分から、斎主・和田桂一祭務課長のもと執行され、三百二十三人が参拝した。

祭員は関東教区各主会青松会員、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は大坂泰造東京主会長、添釜は神奈川主会が担当した。

祭典後、浅田秋彦東京宣教センター長があいさつに立ち、東光苑月次祭時に奉納行事を行うこと、また東京本部内の活性化を目的としてアンケートを実施することを報告。また今月より「みろくの世の実践」八項目をテーマに祭典後講話を行うことを紹介。早速『み救い』のみ教えをお伝えするために（宣教活動）」をテーマにお取次ぎした。

出口なお・出口王仁三郎の世界を語る

第百二十回大本公開講座『出口なお・王仁三郎の世界を語る２０１３』は、二月二十日午後七時から八時三十分まで、港区新橋の航空会館において、森良秀東京宣教センター次長を講師に「救世のプログラム―世の立替え立直し―」と題して開催された。参加者は三十五人（内、一般十七人）。

講座では、出口王仁三郎の生い立ちから生涯にとって決定的な転機となった高熊山修行、開祖出口なおとの邂逅（かいこう）と大本入り、さらに『霊界物語』の発表とその後の神業について説いた。「王仁三郎聖師は、顕幽の経綸を成就さして、世界の神、仏、人民、畜類、昆虫までも助ける、救世の使命を遂行した」と結んだ。

古今独歩

出口王仁三郎とその一門の作品展

魂の煌めき～耀盌と書画～

◆鎌倉展
3月19日[火]～24日[日]
入場無料

鎌倉芸術館ギャラリー（神奈川県鎌倉市大船 6-1-2）
午前１０時～午後５時（入場は午後４時３０分まで）
主催：「出口王仁三郎とその一門の作品展」実行委員会
後援：神奈川県・鎌倉市・産経新聞社

第31回企業繁栄祈願祭

今年で第３１回目となります「企業繁栄祈願祭」を、下記の要項で執り行います。

経営される企業、また勤務先の企業や事業所などの繁栄・弥栄はもちろんのこと、日本、そして世界全体の経済の発展をご祈念申し上げます。

長引く不況を乗り越えるためにも、ぜひ企業繁栄祈願をおすすめいたします

日　程　４月２１日（日）午後２時３０分
会　場　大本東京本部・東京宣教センター
申し込み　ご希望の方は申込用紙を送付しますので、下記までご連絡ください（なお昨年お申し込みいただいた方にはこちらから郵送いたします）
申込先　〒110-0008 台東区池之端 2-1-44
大本東京本部　総務管理課
※ 玉串は後日郵送か当日持参かを必ず明記してください
玉串料　一企業１万円以上（申込書に添えて玉串袋にてお納めください）
締　切　４月１５日（月）
※ ご祈願は４月２７日（土）までの１週間執り行います

東光苑祭典・行事予定

3月

10日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・春季合同慰霊祭

20日（水）午後2時～3時30分
※会場の都合により開催時刻を変更します。
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2013」
講題　一つの神、一つの世界、一つの言葉
～みろくの世への道筋～
講師　浅田秋彦（東京宣教センター長）

23日（土）24日（日）
東光苑春季祭式講習会

31日（日）午前10時30分執行
二代教主毎年祭（61年）

4月

7日（日）午前10時30分～午後3時
東光苑観桜茶会

14日（日）午前10時30分執行
東光苑春季大祭（教主さまご臨席）

17日（水）午後7時～8時30分
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2013」
講題　ネットワーク時代を生きるための患者学
講師　加藤眞三（慶應義塾大学看護医療学部教授）

21日（日）午後2時30分執行
企業繁栄祈願祭（31回）

29日（日）午前10時30分執行
四代教主毎年祭（12年）